

令和8年度「ウェルビーイング・SDGs推進ファンド」助成事業について

- (1) 申請件数 10事業 (2) 第一次審査通過 9事業
 (3) 第二次審査通過・採択件数 4事業 助成金額合計¥8,504,000-
 <第二次審査採択事業>

事業者名		事業概要<①目的 ②内容 ③事業計画[実施場所]>		
		助成金額 (総事業費)	主なSDG s のゴール	
合同会社 BOUKEN	申請事業名：都市型避難における排泄と健康のウェルビーイング向上実証事業			
	①災害時の排泄問題が脱水、熱中症、感染症、災害関連死等につながる課題に対し、区民が「排泄と健康の関係」や災害時の備えについて理解を深める機会を創出する。体験型学習を通じて防災意識と行動変容を促し、品川区における「排泄と健康の防災教育モデル」の構築を目指す。 ②災害時のトイレ問題や在宅避難時の健康リスクについて学ぶ体験型ワークショップを実施する。携帯型排泄補助ツール「ちいかつぷ」や携帯トイレ用品の組立・使用体験を行うとともに、事前・事後アンケート等を通じて理解度や備蓄行動の変化を検証する。 ③7月：都市型防災ワークショップ開催 [品川産業支援交流施設 SHIP] 8月～12月：区民・在勤者向け体験型ワークショップ3回開催 [区内公共施設等] 1月～2月：アンケート集計・分析、防災教育プログラムとして成果とりまとめ 助成期間終了後：区内学校・企業・町会向けに有償ワークショップとして展開し、参加費・企業研修費・自治体委託費・製品販売収入を組み合わせる自走化を図る。さらに他自治体への展開で排泄と健康を含む防災教育の標準化を目指す。			
	¥800,000 (¥1,000,000)			
株式会社 LEAN	申請事業名：受験期の中高校生における生理・コンディション課題の解決に向けた実証事業			
	①生理や睡眠、メンタル不調などが学業や部活動へ与える影響を可視化し、中高生の自己管理能力（メタ認知）の向上を図るとともに、生徒の不調を早期に把握できる仕組みを構築し、学校導入の「しながわモデル」の確立を目指す。 ②生徒が日々の心身の状態を記録できる学校向けコンディション管理システムを開発・運用する。入力データやアンケート結果を活用して効果検証を行い、生理・健康教育コンテンツの整備と学校導入モデルの構築を進める。 ③6月～8月：企画・準備（実証協力校ヒアリング、要件定義、学校特化型ベータ版開発、導入マニュアル等整備） [青稜中学校・高等学校] 9月～11月：実証クラスにおいてシステム運用開始、生徒・教職員へのヒアリングや機能改善を実施 [青稜中学校・高等学校] 11月～2月：リリース版開発、効果検証実施 2月：効果検証・レポート作成、教育コンテンツ動画一般公開 助成期間終了後：実証協力校への学校予算による本導入。利用料収入を開発・運用費に充当し、実証で得た要件定義をもとに区内他校への展開により、「しながわモデル」の水平展開を図る。			
	¥2,306,000 (¥2,883,736)			

株式会社 しながわ 街づくり 計画	申請事業名：「食のバリアフリー」による高齢者 QOL 向上と 地域介護エコシステム構築実証事業 ①オーラルフレイルにより「食べる喜び」を失いつつある高齢者の QOL 向上を図るとともに、介護施設・在宅介護・EC を連動させた持続可能な地域介護エコシステムを構築し、品川区発の介護食モデルの確立を目指す。 ②農林水産省認定の「そしゃく配慮食品 JAS 規格」を取得した「おばあちゃんぱん」を活用し、高齢者施設での提供実証、EC モニター調査、施設管理者向け体験プログラムを実施する。実証を通じて食べやすさや満足度向上の効果を検証し、介護食導入ガイドラインを作成する。 ③9 月：準備（区内高齢者施設との調整及び実証準備、EC モニター募集開始） 10 月～12 月：区内高齢者施設において提供実証を実施（食べやすさや満足度等を調査）、EC モニターによる継続調査を実施 [区内高齢者福祉施設、EC モニター自宅] 11 月～1 月：施設長・栄養士等を対象とした体験プログラム実施（導入効果検証） [区内高齢者福祉施設] 2 月：実証成果の統合、導入ガイドライン作成・展開 助成期間終了後：BtoB の定期仕入れ売上および BtoC の EC 定期便売上を主要収益源として事業自走化を図る。 ¥398, 000 (¥1, 094, 650) 3 すべての人に健康と福祉を  10 人や国の不平等をなくそう  11 住み続けられるまちづくりを  17 パートナーシップで目標を達成しよう 
株式会社 オープン メディカ ルラボ	申請事業名：品川区ウェルビーイング実証事業：Enabling City Walk (ECW) イベント × Joyspan のびしろ診断コンテンツ × 日常利用向け ECW アプリによる市民参加型まちづくりデータ基盤の構築 ①区民の主観的ウェルビーイングデータを継続的に収集・分析し、品川区のウェルビーイング政策やまちづくりに活用できる EBPM（証拠に基づく政策立案）基盤の構築を目指す。 ②まち歩きイベント「Enabling City Walk (ECW)」、ウェルビーイング特性を診断する「Joyspan のびしろ診断」、日常利用向け ECW アプリを組み合わせ、区民の感情・行動・位置情報データを収集する。分析結果から行政投資優先度マップや EBPM 政策提言を取りまとめ、「ウェルビーイング・まちづくり調査報告書」を作成する。 ③8 月～9 月：準備（関係者調整、参加者募集、日常版 ECW アプリ開発） 10 月～12 月：まち歩きイベント「ECW」を各地区で計 7 回程度実施、Joyspan のびしろ診断実施、日常版 ECW アプリモニター調査実施 [区内各地区] 1 月：データ分析、行政投資優先度マップ・調査報告書作成 2 月：成果報告 助成期間終了後：品川区内的の実績をもとに、近隣自治体への展開や法人向け健康経営サービス提供により収益事業化を図る ¥5, 000, 000 (¥7, 500, 000) 3 すべての人に健康と福祉を  11 住み続けられるまちづくりを  17 パートナーシップで目標を達成しよう 